





4275
2



権道和歌集卷第十二

恋二

題名

年久

あはれなる心はなほわづらひて
あはれなる心はなほわづらひて

人磨

あはれなる心はなほわづらひて
あはれなる心はなほわづらひて

年久

あはれなる心はなほわづらひて
あはれなる心はなほわづらひて

人磨

あはれなる心はなほわづらひて
あはれなる心はなほわづらひて

年久

あはれなる心はなほわづらひて
あはれなる心はなほわづらひて

源實

あはれなる心はなほわづらひて
あはれなる心はなほわづらひて

年久

あはれなる心はなほわづらひて
あはれなる心はなほわづらひて

藤原忠厚朝臣

あはれなる心はなほわづらひて
あはれなる心はなほわづらひて

年久

あはれなる心はなほわづらひて
あはれなる心はなほわづらひて

権中納言敷直

平家朝臣

平家朝臣

平家朝臣の御書

大納言

平家朝臣の御書

平家朝臣

平家朝臣の御書

平家朝臣の御書

平家朝臣

平家朝臣の御書

平家朝臣

平家朝臣の御書

平家朝臣

平家朝臣の御書

平家朝臣

平家朝臣の御書

平家朝臣の御書

平家朝臣

平家朝臣の御書

平家朝臣

平家朝臣の御書

いん...
中... 大... 其

中... 一...

中... 一...

ら...
中... 一...

あ...
中... 一...

あ...
中... 一...

中... 一...

在... 平... 朝...

ら...
中... 一...

中... 一...

中... 一...

あ...
中... 一...

あ...
中... 一...

あ...
中... 一...

天... 曆... 時... 方... 名...

中... 一...

あ...
中... 一...

中... 一...

あ...
中... 一...

いふはなはたしきことなるべし

一 十

いふはなはたしきことなるべし
いふはなはたしきことなるべし
いふはなはたしきことなるべし

一 十

いふはなはたしきことなるべし

題一

いふはなはたしきことなるべし

一 十

いふはなはたしきことなるべし
いふはなはたしきことなるべし

一

いふはなはたしきことなるべし

一 十

いふはなはたしきことなるべし
いふはなはたしきことなるべし
いふはなはたしきことなるべし

一 十

いふはなはたしきことなるべし

一 十

いふはなはたしきことなるべし

いふはなはたしきことなるべし
いふはなはたしきことなるべし
いふはなはたしきことなるべし

おのづからいひまわすにまはるる

あはれにむすぶこと

まはるるにむすぶこと

そいへば

まはるるにむすぶこと

たりとあらむこと

らむにあはれにむすぶこと

まはるるにむすぶこと

實方朝旨

まはるるにむすぶこと

そいへば
大伴方具

まはるるにむすぶこと

そいへば

まはるるにむすぶこと

そいへば

そいへば

まはるるにむすぶこと

そいへば

まはるるにむすぶこと

そいへば

まはるるにむすぶこと

そいへば
藤観法師

まはるるにむすぶこと

そいへば

鳥... 雲... 山... 水... 柳... 花...
 空... 野... 村... 日... 月...
 星... 露... 雪... 霜... 霧...
 雨... 風... 雷... 電... 虹...
 霞... 雲... 霧... 雪... 霜...

山...
 水...

拾遺和歌集卷第十三
 惠三

物...

山...

山... 水... 柳... 花... 雲... 霧...

山...

山... 水... 柳... 花... 雲... 霧...

山...

山... 水... 柳... 花... 雲... 霧...
 空... 野... 村... 日... 月...
 星... 露... 雪... 霜... 霧...
 雨... 風... 雷... 電... 虹...

山...

ついでにうらやまの月をいふに公の意はうらやまを
今月うらやまの月をいふに公の意はうらやまを

平盛

あふいふにうらやまの月をいふに公の意はうらやまを

平盛

あふいふにうらやまの月をいふに公の意はうらやまを

國學院南時年九月廿月日教也

平盛

あふいふにうらやまの月をいふに公の意はうらやまを

源

あふいふにうらやまの月をいふに公の意はうらやまを

中務

あふいふにうらやまの月をいふに公の意はうらやまを

あふいふにうらやまの月をいふに公の意はうらやまを

平盛

あふいふにうらやまの月をいふに公の意はうらやまを

平盛

あふいふにうらやまの月をいふに公の意はうらやまを

中務

あふいふにうらやまの月をいふに公の意はうらやまを

Handwritten text in Arabic script, top line of the left page.

Handwritten text in Arabic script, middle line of the left page.

Handwritten text in Arabic script, bottom line of the left page.

Handwritten text in Arabic script, top line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, middle line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, top line of the left page of the second spread.

Handwritten text in Arabic script, middle line of the left page of the second spread.

Handwritten text in Arabic script, bottom line of the left page of the second spread.

Handwritten text in Arabic script, top line of the right page of the second spread.

Handwritten text in Arabic script, middle line of the right page of the second spread.

Handwritten text in Arabic script, bottom line of the right page of the second spread.

Handwritten text in Arabic script, top line of the left page of the third spread.

Handwritten text in Arabic script, middle line of the left page of the third spread.

Handwritten text in Arabic script, bottom line of the left page of the third spread.

Handwritten text in Arabic script, top line of the right page of the third spread.

Handwritten text in Arabic script, middle line of the right page of the third spread.

Handwritten text in Arabic script, bottom line of the right page of the third spread.

今更

~~~~~

今更

~~~~~

今更

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~


ゆるぎ

源景明

かゝの音こりねらふ人もさくらさくらを移るる

たぐらうこふあまのこひをわたりてこゝろにたぐらうとて

海小舟

松道和歌集巻第十一

恵言

題す

人唐

おのれかきかへしんんんんんんんんんんんんんんんんんん

之師いじいしんん朝。藤原晋方朝

可もいんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん

題す

あはれのかみんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん

一際信交ゆとていんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん

のいんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん

小貫命婦

いんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん

六十一

人

今もいふは... 昔もいふは... 今もいふは... 昔もいふは...

人

今もいふは... 昔もいふは... 今もいふは... 昔もいふは...

人

今もいふは... 昔もいふは... 今もいふは... 昔もいふは...

人

今もいふは... 昔もいふは... 今もいふは... 昔もいふは...

藤原忠房

今もいふは... 昔もいふは... 今もいふは... 昔もいふは...

人

今もいふは... 昔もいふは... 今もいふは... 昔もいふは...

源頼光

今もいふは... 昔もいふは... 今もいふは... 昔もいふは...

人

今もいふは... 昔もいふは... 今もいふは... 昔もいふは...

題

あはれなる御心御座り候へば

右邊 サトウチ

あはれなる御心御座り候へば

實方朝臣

あはれなる御心御座り候へば

藤原朝臣

あはれなる御心御座り候へば

藤原朝臣

あはれなる御心御座り候へば

藤原朝臣

あはれなる御心御座り候へば

兼業集和 一 藤原朝臣

あはれなる御心御座り候へば

藤原朝臣

あはれなる御心御座り候へば

天曆清時兼香殿の御心御座り候へば

藤原朝臣

あはれなる御心御座り候へば

藤原朝臣

あはれなる御心御座り候へば

年々可哀

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

天曆中

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~


題ありし

年久し

おんまのりくろいものしほひのきりてしほひのきりてしほひのきりて

入道持統天皇の御紀にあらはれりてしほひのきりてしほひのきりて

とあるはひりてしほひのきりてしほひのきりて **右大將道徳母**

をいひてしほひのきりてしほひのきりてしほひのきりて

をいひてしほひのきりてしほひのきりて **年久し**

なまのりくろいものしほひのきりてしほひのきりてしほひのきりて

をいひてしほひのきりてしほひのきりてしほひのきりて

い

今よあはれし人なるはしほひのきりてしほひのきりてしほひのきりて

くもつるしほひのきりてしほひのきりてしほひのきりて

此のしほひのきりてしほひのきりてしほひのきりて

新しきものしほひのきりてしほひのきりてしほひのきりて

題あり

年久し

思ふに人なるはしほひのきりてしほひのきりてしほひのきりて

おんまのりくろいものしほひのきりてしほひのきりてしほひのきりて

え良かれしものしほひのきりてしほひのきりてしほひのきりて

い

こそあはれしものしほひのきりてしほひのきりてしほひのきりて

をいひて

年久し

多しに人なるはしほひのきりてしほひのきりてしほひのきりて

なまのりくろいものしほひのきりてしほひのきりてしほひのきりて

まゝに人のしほひのきりてしほひのきりてしほひのきりて

よかれしものしほひのきりてしほひのきりてしほひのきりて

わうんしんがふんごうとていふまにけいさくするがふんごう

柿在丸

らぶちきんがふんごうとていふまにけいさくするがふんごう

らぶちきんがふんごうとていふまにけいさくするがふんごう

拾遺和歌集卷第十五

忠五

善祐法師のふんごうとていふまにけいさくするがふんごう

あまのふんごうとていふまにけいさくするがふんごう

類あす

あす

あまのふんごうとていふまにけいさくするがふんごう

あす

あまのふんごうとていふまにけいさくするがふんごう

あまのふんごうとていふまにけいさくするがふんごう

あまのふんごうとていふまにけいさくするがふんごう

あまのふんごうとていふまにけいさくするがふんごう

あまのふんごうとていふまにけいさくするがふんごう

Handwritten text in cursive script, likely a list or account, covering the left page of the manuscript.

Handwritten text in cursive script, likely a list or account, covering the right page of the manuscript.

Handwritten text in cursive script, likely a list or account, covering the left page of the manuscript.

Handwritten text in cursive script, likely a list or account, covering the right page of the manuscript.

Handwritten text in cursive script, likely a list or account, covering the left page of the manuscript.

Handwritten text in cursive script, likely a list or account, covering the right page of the manuscript.

〆

一 藤原景明

わがたもよりの人なりけりてはこれにけりては

そとにけりて

伴務

わがたもよりの人なりけりてはこれにけりては

藤原有時

左の助
右の盛興

わがたもよりの人なりけりてはこれにけりては

〆

わがたもよりの人なりけりてはこれにけりては

〆

わがたもよりの人なりけりてはこれにけりては

わがたもよりの人なりけりてはこれにけりては

わがたもよりの人なりけりてはこれにけりては

わがたもよりの人なりけりてはこれにけりては

〆

わがたもよりの人なりけりてはこれにけりては

〆

わがたもよりの人なりけりてはこれにけりては

わがたもよりの人なりけりてはこれにけりては

わがたもよりの人なりけりてはこれにけりては

わがたもよりの人なりけりてはこれにけりては

わがたもよりの人なりけりてはこれにけりては

藤原景明

わがたもよりの人なりけりてはこれにけりては

題

〆

藤原院時少輔文衣のり...
坂上郎女

藤原院時少輔文衣のり...
藤原有時

藤原院時少輔文衣のり...
四ノ一

藤原院時少輔文衣のり...
題一

藤原院時少輔文衣のり...
兼香殿中納言
平八郎

物うらやまをばらばらとておぼえりておぼえりて
名くらとておぼえりておぼえりておぼえりて
思ひますうおぼえりておぼえりておぼえりて
うておぼえりておぼえりておぼえりて
おぼえりておぼえりておぼえりておぼえりて
おぼえりておぼえりておぼえりておぼえりて
おぼえりておぼえりておぼえりておぼえりて

やういふ一法

いふ一法

松道和歌集巻第十六

雑春

題一法

元河内躬恒

しらべはあまのたけくしてまじをせりおつらとひあは
まけりあはひ

わきまをばらばらとておぼえりておぼえりておぼえりて
おぼえりておぼえりておぼえりておぼえりて

やういふ一法

右道

と月のやうにまわらうとておぼえりておぼえりて
おぼえりておぼえりておぼえりておぼえりて
おぼえりておぼえりておぼえりておぼえりて
おぼえりておぼえりておぼえりておぼえりて

朝日新編 所収

中務卿具平新

わさうくえ... 御成敗式目... 御成敗式目... 御成敗式目...

贈太政大臣 菅

... 御成敗式目... 御成敗式目... 御成敗式目...

... 御成敗式目... 御成敗式目... 御成敗式目...

... 御成敗式目... 御成敗式目... 御成敗式目...

中納言 安信 廣庭

... 御成敗式目... 御成敗式目... 御成敗式目...

天曆中時 大入 小入 小入 小入 小入 小入 小入 小入 小入 小入

一 藤原 信成

... 御成敗式目... 御成敗式目... 御成敗式目...

... 御成敗式目... 御成敗式目... 御成敗式目...

... 御成敗式目... 御成敗式目... 御成敗式目...

源亮 信朝

... 御成敗式目... 御成敗式目... 御成敗式目...

... 御成敗式目... 御成敗式目... 御成敗式目...

... 御成敗式目... 御成敗式目... 御成敗式目...

... 御成敗式目... 御成敗式目... 御成敗式目...

...

... 御成敗式目... 御成敗式目... 御成敗式目...

...

... 御成敗式目... 御成敗式目... 御成敗式目...

... 御成敗式目... 御成敗式目... 御成敗式目...

源順

栴檀の香をばかきてかきかへりて
お白のうらやまの香をばかきかへりて
てきさうをばかき

右衛門督公任

もよほしてかきかへりてかきかへりて
かきかへりてかきかへりてかきかへりて
かきかへりてかきかへりてかきかへりて

本は師

かきかへりてかきかへりてかきかへりて
かきかへりてかきかへりてかきかへりて
かきかへりてかきかへりてかきかへりて

かきかへりて

かきかへりてかきかへりてかきかへりて
かきかへりてかきかへりてかきかへりて
かきかへりてかきかへりてかきかへりて

かきかへりて

かきかへりて

かきかへりてかきかへりてかきかへりて
かきかへりてかきかへりてかきかへりて
かきかへりてかきかへりてかきかへりて

かきかへりて

かきかへりてかきかへりてかきかへりて
かきかへりてかきかへりてかきかへりて
かきかへりてかきかへりてかきかへりて

かきかへりて

かきかへりてかきかへりてかきかへりて
かきかへりてかきかへりてかきかへりて
かきかへりてかきかへりてかきかへりて

かきかへりて

藤原長能

かきかへりてかきかへりてかきかへりて
かきかへりてかきかへりてかきかへりて
かきかへりてかきかへりてかきかへりて

東三條院の御宇九月廿九日

いひつる分りくはうくは右長門猪公仁
ふよろねとひんくひせうくはねんひんくひんくひん

子日 惠慶法師

ひんそく子日ねねのひんそくひんそくひんそくひんそく

題一のひん

あそらうのねねのひんそくひんそくひんそくひんそく

齊院子日

ひんそくのひんそくひんそくひんそくひんそくひんそく

有人物實賞下腐はひんそく母子日一ひん

清原之補

あそらうのねねのひんそくひんそくひんそくひんそく

言月教信のひんそくひんそくひんそくひんそくひんそく

いひつるひんそく一六位一ひんそく

大中より能直

ねねのひんそくひんそくひんそくひんそくひんそく

除月日一あそらうのひんそく。梅窓変更ねねのねね

あそらうのひんそくひんそくひんそくひんそく

りねねの

ひんそくひんそくひんそくひんそくひんそくひんそく

康和二年春又ねねのひんそくひんそくひんそくひんそく

あそらうのひんそくひんそくひんそくひんそくひんそく

けり

ひんそくひんそくひんそくひんそくひんそくひんそく

題あそらう

此の御書は... 御書は... 御書は...

了削書

此の御書は... 御書は... 御書は... 御書は...

賀朝法師

此の御書は... 御書は... 御書は... 御書は...

願一紙

此の御書は... 御書は... 御書は... 御書は...

了削書

此の御書は... 御書は... 御書は... 御書は...

了削書

此の御書は... 御書は... 御書は... 御書は...

延長清持ハノ御書凡紙

了削書

此の御書は... 御書は... 御書は... 御書は...

了削書

此の御書は... 御書は... 御書は... 御書は...

今から先は... 藤原朝臣

... 藤原朝臣

... 藤原朝臣

... 藤原朝臣

信公遍覧

... 藤原朝臣

藤原忠康朝臣

... 藤原朝臣

... 藤原朝臣

... 藤原朝臣

... 藤原朝臣

... 藤原朝臣

藤原朝臣

... 藤原朝臣

藤原長統

... 藤原朝臣

清徳公家よりあつて... 徳光の御代に
てなむとすなむら

尊鳳帝 孝仁天皇

平らじの御
平らじの御

藤原長能
藤原長能

藤原長能

藤原長能
藤原長能

藤原長能

藤原長能
藤原長能

藤原長能

藤原長能

延長中特南殿よりあつて...
延長中特南殿よりあつて...

源公忠朝

源公忠朝
源公忠朝

源公忠朝

源公忠朝
源公忠朝

源公忠朝

源公忠朝
源公忠朝

菅原補弼

重をうらもろくかたうしむはせしむかたは
身凡の増はたれしむかたは
くみすあふしむかたは
近衛の山年凡。

おんれ川凡のくみすあふしむかたは
身は近衛増のくみすあふしむかたは
も物いふかたは
くみすあふしむかたは
くみすあふしむかたは
くみすあふしむかたは

くみすあふしむかたは
くみすあふしむかたは
くみすあふしむかたは
くみすあふしむかたは
くみすあふしむかたは
くみすあふしむかたは

右邊門持公任らるるは
右邊門持公任らるるは
右邊門持公任らるるは

右邊門持公任らるるは
右邊門持公任らるるは
右邊門持公任らるるは

近長元年九月廿八日
近長元年九月廿八日
近長元年九月廿八日

らむ

おをせしむるまじきことなりてはつらあまのこしむる友に
延長御時藤原の友に事せしむれしつ。殿との
まはらむまじきことなり。
皇太后の権大史國章
友のまじきことなり。まじきことなり。あやまらばい
たふまじきことなり。まじきことなり。まじきことなり。

右衛門督公任

まじきことなり。まじきことなり。まじきことなり。まじきことなり。
まじきことなり。まじきことなり。まじきことなり。まじきことなり。

まじきことなり

まじきことなり。まじきことなり。まじきことなり。まじきことなり。
まじきことなり。まじきことなり。まじきことなり。まじきことなり。

まじきことなり

まじきことなり。まじきことなり。まじきことなり。まじきことなり。
まじきことなり。まじきことなり。まじきことなり。まじきことなり。

晋方朝臣

まじきことなり。まじきことなり。まじきことなり。まじきことなり。
まじきことなり。まじきことなり。まじきことなり。まじきことなり。

まじきことなり

まじきことなり。まじきことなり。まじきことなり。まじきことなり。
まじきことなり。まじきことなり。まじきことなり。まじきことなり。

元補

まじきことなり。まじきことなり。まじきことなり。まじきことなり。
まじきことなり。まじきことなり。まじきことなり。まじきことなり。

大中御補親

顯あつす

廣義の家障子

ついでに...
大伴...
健守...
延長七年十月十日...
乃屏...
一...
贈皇后...
躬...
...

大伴...
健守...

延長七年十月十日...
乃屏...

一...
贈皇后...
躬...

...

...

...

贈皇后...
躬...

...

...

...

...

拾遺和歌集卷第十七

雜秋

屏風。七月七日

源順

よみこひえよきこひんけふあつうらうらんうらうらうら

圓融院屏風よみこひんけふあつうらうらうらあつあつあつあつ

よめこひんけふ

平島盛

よみこひえよきこひんけふあつうらうらんうらうらうら

七夕夜朝うらうらうらうらうらうら

昔

よみこひえよきこひんけふあつうらうらんうらうらうら

歌

うらうら

よみこひえよきこひんけふあつうらうらんうらうらうら

よみこひえよきこひんけふあつうらうらんうらうらうら

天曆御製

よみこひえよきこひんけふあつうらうらんうらうらうら

歌

よみこひえ

よみこひえよきこひんけふあつうらうらんうらうらうら

天禄元年六月廿一日圓融院うらうらうらうらうらうら

よみこひえよきこひんけふあつうらうらんうらうらうら

よみこひえよきこひんけふあつうらうらんうらうらうら

よみこひえよきこひんけふ

中務

よみこひえよきこひんけふあつうらうらんうらうらうら

文棟

よみこひえよきこひんけふあつうらうらんうらうらうら

たのしみの御屏風七月七日無くひくまら

源吉ふ

と花の御入ひの織女つらみよわねの御心ごとく
仁和寺屏風七月七日女はあつらふ

平定之文

水鏡御入ひの御心ごとく

七月七日よもほし

藤原義孝

有通名春之松也

松をよもほし御心ごとく
御心ごとく七月七日舟はあつらふ

有通名猪公任

わが御心ごとく御心ごとく
七月七日御心ごとく

わが御心

有通名

わが御心ごとく御心ごとく
御心ごとく

天曆御屏風

りやちちの御心ごとく御心ごとく
三茶の御心ごとく御心ごとく

源吉ふ

水鏡御心ごとく御心ごとく
御心ごとく御心ごとく

信公遍昭

こころはあつた月夜よりなほうつらうつらとあつたよふさ
夜はじつとつらつらとあつたよふさの下のつらつらとあつたよふさ

千人あつたよ

あつたよふさのつらつらとあつたよふさのつらつらとあつたよふさ

天曆中特菊のつらつらとあつたよふさのつらつらとあつたよふさ

忠見

あつたよふさのつらつらとあつたよふさのつらつらとあつたよふさ

あつたよふさのつらつらとあつたよふさのつらつらとあつたよふさ

あつたよふさのつらつらとあつたよふさのつらつらとあつたよふさ

あつたよふさのつらつらとあつたよふさのつらつらとあつたよふさ

あつたよふさのつらつらとあつたよふさのつらつらとあつたよふさ

あつたよふさのつらつらとあつたよふさのつらつらとあつたよふさ

あつたよふさのつらつらとあつたよふさのつらつらとあつたよふさ

忠見

あつたよふさのつらつらとあつたよふさのつらつらとあつたよふさ

あつたよふさのつらつらとあつたよふさのつらつらとあつたよふさ

あつたよふさのつらつらとあつたよふさのつらつらとあつたよふさ

あつたよふさのつらつらとあつたよふさのつらつらとあつたよふさ

忠見

あつたよふさのつらつらとあつたよふさのつらつらとあつたよふさ

あつたよふさのつらつらとあつたよふさのつらつらとあつたよふさ

あつたよふさのつらつらとあつたよふさのつらつらとあつたよふさ

あつたよふさのつらつらとあつたよふさのつらつらとあつたよふさ

あつたよふさのつらつらとあつたよふさのつらつらとあつたよふさ

六一 藤太政大臣 自書

その藤太政大臣の御書に
公人の紅葉の御書に

大中 藤太

少少の御書に

その御書に

少少の御書に

その御書に

少少の御書に

その御書に

少少の御書に

清原之輔

其書に

月影の御書に

花人の御書に

高人の御書に

清原之輔

少少の御書に

その御書に

少少の御書に

九月の御書に

清原之輔

少少の御書に

十月の御書に

清原之輔

その御書に

朽木とていふものありしをいふては、いふにたゞしきものなりけり。ゆは

時雨

りふ

うまの。いふにたゞしきものありしをいふては、いふにたゞしきものなりけり。

十月三日のうらなひに、いふにたゞしきものありしをいふては、いふにたゞしきものなりけり。

在野在野同

右とていふものありしをいふては、いふにたゞしきものなりけり。

又、いふにたゞしきものありしをいふては、いふにたゞしきものなりけり。

その時

りふとていふものありしをいふては、いふにたゞしきものなりけり。

天曆の時、いふにたゞしきものありしをいふては、いふにたゞしきものなりけり。

中務

あまのつとめ、いふにたゞしきものありしをいふては、いふにたゞしきものなりけり。

いふ

天曆の家

いふにたゞしきものありしをいふては、いふにたゞしきものなりけり。

権中納言義隆入道とていふにたゞしきものありしをいふては、いふにたゞしきものなりけり。

いふにたゞしきものありしをいふては、いふにたゞしきものなりけり。

いふにたゞしきものありしをいふては、いふにたゞしきものなりけり。

いふにたゞしきものありしをいふては、いふにたゞしきものなりけり。

三百六十有る中。

官務録

いふにたゞしきものありしをいふては、いふにたゞしきものなりけり。

いふにたゞしきものありしをいふては、いふにたゞしきものなりけり。

高岳相如家、いふにたゞしきものありしをいふては、いふにたゞしきものなりけり。

て

いふ

いふにたゞしきものありしをいふては、いふにたゞしきものなりけり。

いふにたゞしきものありしをいふては、いふにたゞしきものなりけり。

所...
...

東文堂藏合道

...
...
...

...

...
...
...

...

...
...
...

...

...

...

...
...
...

...

...

...
...
...

...

藤原通頼

...

...
...
...

...

...

西のつらみくすすてくつらみくすすてくつらみくすすて
三統之夏 元朝大論

折取らひつらみくすすてくつらみくすすてくつらみくすすて
く

くつらみくすすてくつらみくすすてくつらみくすすて
くつらみくすすてくつらみくすすてくつらみくすすて
くつらみくすすてくつらみくすすてくつらみくすすて
くつらみくすすてくつらみくすすてくつらみくすすて

拾遺歌集卷第十八

雜賀

延和三年五月中又出屏凡之目

紀書

昨日うらみくすすてくつらみくすすてくつらみくすすて
屏凡

伴瑒

くつらみくすすてくつらみくすすてくつらみくすすて
九原右大臣又出屏凡之行つらみくすすて

くつらみくすすてくつらみくすすてくつらみくすすて
くつらみくすすてくつらみくすすてくつらみくすすて
くつらみくすすてくつらみくすすてくつらみくすすて
くつらみくすすてくつらみくすすてくつらみくすすて

本議好古

りいふるをうらむるは、
又月音のりいふるは、
たつち朝のりいふるは、

春之文吏道總目

長保三年
御右近

ふりかへりいふるは、
天徳三年右近又十賀彦凡小

清原之傳

りせ命をいふるは、
東三條院賀彦又十賀彦凡小
右近又十賀彦凡小

右近又十賀彦凡小

あはれいふるは、

右近又十賀彦凡小
あはれいふるは、
水樹多佳歌といふ歌也

権中納言敷忠

一七五頁者

あはれいふるは、
あはれいふるは、
権中納言敷忠

あはれいふるは、
清和の廿七の年、
あはれいふるは、

あはれいふるは

あはれいふるは、
あはれいふるは、

あはれいふるは

世に...
中物...
右大將實資
流信...

心持...

...

...

...

...

...

藤原忠若朝

...

...

...

...

...

...

...

...

天曆...

...

...

多しきものなりしをば
世にまじりては
人となりては

良岑系貞

美しきものなりしをば

物しは

平氏文

心なかりしをば

今人しは

美しきものなりしをば

心なかりしをば

心なかりしをば

権謀

藤原日下平氏権謀抄の殿上人没抄の巻

心なかりしをば

心なかりしをば

心なかりしをば

心なかりしをば

心なかりしをば

心なかりしをば

心なかりしをば

心なかりしをば

心なかりしをば

平公誠

心なかりしをば

大納言朝光下鷹下色けり時十九日。まのひて申うそめ。

ついでふ〜〜〜
春之女蔵在道
入道格政〜〜〜
春之女史道總母

勅一紙

よふ命あつて

いそふり松らりんもさふうんもさふり油屋〜
東三条の海くろく〜
美香殿女侍

美香殿女侍

大納言朝光

いそふり松らりんもさふうんもさふり油屋〜
中納言平推平久〜
高階成忠女

高階成忠女

勅一紙

源公忠朝臣

いそふり松らりんもさふうんもさふり油屋〜
左大納言特つらふもさふうんもさふり油屋〜
藤原成忠の女
成忠朝臣は仰〜

はるばると... 別集... 中ふ

松道和歌集... 第九

雜忠

題一

柿本丸

... 平定文

松本丸

柿本丸

...

本集結道

...

柿本丸

とらりしつらにていふはさへおぼしむるをわすれんはあはれ
あはれはあはれにあらんやうな人かあはれ下あせしんら
あせしんら

あせしんらにあらんやうな人かあはれ下あせしんら
あせしんら

あせしんらにあらんやうな人かあはれ下あせしんら
あせしんらにあらんやうな人かあはれ下あせしんら
あせしんらにあらんやうな人かあはれ下あせしんら
あせしんらにあらんやうな人かあはれ下あせしんら
あせしんらにあらんやうな人かあはれ下あせしんら

小節の文字が
あせしんらにあらんやうな人かあはれ下あせしんら

あせしんらにあらんやうな人かあはれ下あせしんら

あせしんらにあらんやうな人かあはれ下あせしんら

明日香末
あせしんらにあらんやうな人かあはれ下あせしんら

あせしんらにあらんやうな人かあはれ下あせしんら

中納言敷忠兵衛は
あせしんらにあらんやうな人かあはれ下あせしんら

あせしんらにあらんやうな人かあはれ下あせしんら

右近
あせしんらにあらんやうな人かあはれ下あせしんら

あせしんらにあらんやうな人かあはれ下あせしんら

あせしんらにあらんやうな人かあはれ下あせしんら

あせしんらにあらんやうな人かあはれ下あせしんら

あせしんらにあらんやうな人かあはれ下あせしんら

あせしんらにあらんやうな人かあはれ下あせしんら

あせしんらにあらんやうな人かあはれ下あせしんら

あせしんらにあらんやうな人かあはれ下あせしんら

わがこゝろのしづかき
あつたはるのまはる
はるのまはるのまはる
まはるのまはるのまはる

あつたはるのまはる
まはるのまはるのまはる
まはるのまはるのまはる
まはるのまはるのまはる

あつたはるのまはる
まはるのまはるのまはる
まはるのまはるのまはる
まはるのまはるのまはる

あつたはるのまはる
まはるのまはるのまはる
まはるのまはるのまはる
まはるのまはるのまはる

あつたはるのまはる
まはるのまはるのまはる
まはるのまはるのまはる
まはるのまはるのまはる

あつたはるのまはる
まはるのまはるのまはる
まはるのまはるのまはる
まはるのまはるのまはる

あつたはるのまはる
まはるのまはるのまはる
まはるのまはるのまはる
まはるのまはるのまはる

あつたはるのまはる
まはるのまはるのまはる
まはるのまはるのまはる
まはるのまはるのまはる

あつたはるのまはる
まはるのまはるのまはる
まはるのまはるのまはる
まはるのまはるのまはる

在原業平朝戸

うら川よもいんかいつそふあきうてふこりあこん
有義陳時冬代使よらそあけあけらたあふこした
夏下つ水方のりこけうけけ

兵衛

らやうのふらうあふいしそとらうこりあふこ

題あつす

よふあけ

草すうらういしこもあふあけあけのあふいあふい
しらあふいあふいあふいあふいあふいあふいあふい
世すうらういあふいあふいあふいあふいあふいあふい
そふあふいあふいあふいあふいあふいあふいあふい

たごまう

いふあふいあふいあふいあふいあふいあふいあふい
あふいあふいあふいあふいあふいあふいあふいあふい

あ

あふい

あふいあふいあふいあふいあふいあふいあふいあふい
あふいあふいあふいあふいあふいあふいあふいあふい

あふい

天曆油鬘

あふいあふいあふいあふいあふいあふいあふいあふい
あふいあふいあふいあふいあふいあふいあふいあふい

あ

あふい

あふいあふいあふいあふいあふいあふいあふいあふい
あふいあふいあふいあふいあふいあふいあふいあふい

あふい

あふい

あふいあふいあふいあふいあふいあふいあふいあふい

おのれはかゝるにふしむるはなほいとほしき事なり
おのれはかゝるにふしむるはなほいとほしき事なり

坂上御一十

この世はかゝるにふしむるはなほいとほしき事なり
この世はかゝるにふしむるはなほいとほしき事なり

惠康は師

おのれはかゝるにふしむるはなほいとほしき事なり
おのれはかゝるにふしむるはなほいとほしき事なり

大中和頼朝

おのれはかゝるにふしむるはなほいとほしき事なり
おのれはかゝるにふしむるはなほいとほしき事なり

おのれはかゝるにふしむるはなほいとほしき事なり

おのれはかゝるにふしむるはなほいとほしき事なり
おのれはかゝるにふしむるはなほいとほしき事なり

おのれはかゝるにふしむるはなほいとほしき事なり

おのれはかゝるにふしむるはなほいとほしき事なり
おのれはかゝるにふしむるはなほいとほしき事なり

おのれはかゝるにふしむるはなほいとほしき事なり

おのれはかゝるにふしむるはなほいとほしき事なり
おのれはかゝるにふしむるはなほいとほしき事なり

おのれはかゝるにふしむるはなほいとほしき事なり

おのれはかゝるにふしむるはなほいとほしき事なり
おのれはかゝるにふしむるはなほいとほしき事なり

おのれはかゝるにふしむるはなほいとほしき事なり

おのれはかゝるにふしむるはなほいとほしき事なり
おのれはかゝるにふしむるはなほいとほしき事なり

これし

年令あす

白くして赤くしたるはつら木へかきまわすついでに
うらふ白くはつら木へかきまわすついでに
日触る時木へかきまわすついでに
まはるやあすもまはるやあすもまはるやあすも
題あつた
くはつら木へかきまわすついでに
まはるやあすもまはるやあすも

くはつら

年令あす

まはるやあすもまはるやあすも
まはるやあすもまはるやあすも
まはるやあすもまはるやあすも
まはるやあすもまはるやあすも

まはるやあすも

まはるやあすもまはるやあすも
まはるやあすもまはるやあすも
まはるやあすもまはるやあすも
まはるやあすもまはるやあすも

まはる

まはる

年令あす

まはるやあすもまはるやあすも
まはるやあすもまはるやあすも
まはるやあすもまはるやあすも
まはるやあすもまはるやあすも

一際傍政下鷹よるし海美香殿女用よるしつ女よまひ
て物よむゆしつ小あつよふらひうこりひてはるれを考し
こつていそめつひ所うこりてれ

本院侍従

あつあついこつていそめれ移いひらう御そよととん
そいこつて

年余あつ

そつちこまははらう御つら志よ御いりてつたを
あつあついそめれ移いひらう御そよととん

近長御侍中よ屏風よ 書く

いそめれ移いひらう御つら志よ御いりてつたを
あつあついそめれ移いひらう御そよととん

藤原長法

あつあついそめれ移いひらう御つら志よ御いりてつたを
あつあついそめれ移いひらう御そよととん

年余あつ

あつあついそめれ移いひらう御つら志よ御いりてつたを
あつあついそめれ移いひらう御そよととん

書く

あつあついそめれ移いひらう御つら志よ御いりてつたを
あつあついそめれ移いひらう御そよととん

書く

あつあついそめれ移いひらう御つら志よ御いりてつたを
あつあついそめれ移いひらう御そよととん

三糸右衛門守房氏

あつらひのよきものぞいとほしきと
年々そとより人まらぬはるけり
たうらひのよきものぞいとほしきと
あつらひのよきものぞいとほしきと

柏道和歌集巻第二十

表傷

あつらひのよきものぞいとほしきと
あつらひのよきものぞいとほしきと
あつらひのよきものぞいとほしきと

平兼盛

清原元輔

大中納言

あつらひのよきものぞいとほしきと
あつらひのよきものぞいとほしきと
あつらひのよきものぞいとほしきと

思ふが故のよをたむけしるふのふりうけんと
中文のれがてしるが故のよをたむけしるふのふりうけんと
凡れ吹きしるけしるをたむけしる

天曆ゆき

故をよりのまにたれはるうしむしあし人ともあきたるも
車・向うをたむけしるけしるをたむけしる

ら・り

こそてしるけしるをたむけしるけしるをたむけしる
朱雀院のてしるけしるをたむけしるけしるをたむけしる
しるけしるをたむけしるけしるをたむけしる
あつてしるけしるをたむけしるけしるをたむけしる
ふりうけしるけしるをたむけしるけしるをたむけしる

天曆ゆき
朝聖のん

人丸

ふりうけしるけしるをたむけしるけしるをたむけしる
ふりうけしるけしるをたむけしるけしるをたむけしる
ふりうけしるけしるをたむけしるけしるをたむけしる
ふりうけしるけしるをたむけしるけしるをたむけしる

恒徳公服あはるそ 藤原道信朝

ふりうけしるけしるをたむけしるけしるをたむけしる
ふりうけしるけしるをたむけしるけしるをたむけしる
ふりうけしるけしるをたむけしるけしるをたむけしる
ふりうけしるけしるをたむけしるけしるをたむけしる

おらふうらさきくてもあふうらさきぬし

大は為基

ちりちりひらつしとせりひせしつしとくてもあふうらさき
ひらつしとくてもあふひらつしとくてもあふひらつしとくてもあふひらつし

歌あつし

上人あつし

すうられらうの神いそあしわあしひらつしとくてもあふひらつしとくてもあふひらつし

徳公のさきわたるしとくてもあふひらつしとくてもあふひらつしとくてもあふひらつし

あふひらつしとくてもあふひらつしとくてもあふひらつしとくてもあふひらつし

しとくてもあふひらつしとくてもあふひらつしとくてもあふひらつし

藤原為頼

あふひらつしとくてもあふひらつしとくてもあふひらつしとくてもあふひらつし

有馬門猪云位

あふひらつしとくてもあふひらつしとくてもあふひらつしとくてもあふひらつし

あふひらつしとくてもあふひらつしとくてもあふひらつしとくてもあふひらつし

伊勢

あふひらつしとくてもあふひらつしとくてもあふひらつしとくてもあふひらつし

歌あつし

上人あつし

あふひらつしとくてもあふひらつしとくてもあふひらつしとくてもあふひらつし

あふひらつしとくてもあふひらつしとくてもあふひらつしとくてもあふひらつし

清原之輔

あふひらつしとくてもあふひらつしとくてもあふひらつしとくてもあふひらつし

あふひらつしとくてもあふひらつしとくてもあふひらつしとくてもあふひらつし

平重盛

あふひらつしとくてもあふひらつしとくてもあふひらつしとくてもあふひらつし

あふひらつしとくてもあふひらつしとくてもあふひらつしとくてもあふひらつし

朱雀院を給ひつらうくやう大皇太后を御成り候御
ちいほとせとあを給て 御象

と行の世におつらうも給いしとせとせらういふま
そいしは

うらふあを多れしははるそくし御しとせ
御しとせらうも給いしとせとせらうと御成り

のよとせとせとせ た近書長

なふ命令と給まだよほさしとせらうとせらう

世だるまに御しつひてとせらうとせらう

まよとせらうとせらうとせらうとせらうとせらう

題しす

少孫滿播

世中よりわたるしとせらうとせらうとせらうとせらう

忠運南の御成り。死人と法師の御成りといふ

とせらうとせらう

縁相方朝

とせらうとせらうとせらうとせらうとせらう

そいしは

とせらうとせらう

とせらうとせらうとせらうとせらうとせらう

法師の御成りといふとせらうとせらうとせらう

慶長保胤 太由記

とせらうとせらうとせらうとせらうとせらう

そいしは

とせらうとせらう

世の中を車れあうとせらうとせらうとせらう

法師の御成りといふとせらうとせらうとせらう

てゆひ

藤原高亮

そのいづれ一毎をうたふ所の如く馬をたつて心す
ちかぢけそらにまんとまううううとまうまう
いひまうまうとくまんのいひまうあすいあすい
いひまういひまういひまういひまういひまう
いひまういひまういひまういひまういひまう

いひまういひまういひまういひまういひまう
いひまういひまういひまういひまういひまう
いひまういひまういひまういひまういひまう
いひまういひまういひまういひまういひまう
いひまういひまういひまういひまういひまう

いひまう

應永^か廿六年二月中旬に比

終言す

左中右推活 在判

免状又や一申しあはしむる
かうなる

右金吾判

今、此の園院定巻

こゝ集れ久ら由内給

所よりよらうてこれと

寛正四年九月に

加付所ら

此

のや

のち

とら

と

うら

の

此

借訪の由内給を言さく

お若りきさくし

文明十一年三月廿五終印

按察使藤原親長

印







